



太陽光発電事業の現状と課題について

令和8年5月22日

環境生活部温暖化対策推進課



1 概要

- 太陽光発電事業は、FIT制度創設により急速に導入が進んできた。
- 一方、災害、環境や景観への影響、地域住民とのトラブルなどの問題が発生している。
- これらの問題に対し、現行法令だけではカバーしきれない部分がある。

2 千葉県における太陽光発電事業の導入状況

(1) 長期目標

2050年 カーボンニュートラル実現

(2) 県内の導入状況 【2024年度】

年間電気使用量	37.9 TWh
太陽光発電発電電力量	4.6 TWh
太陽光発電ポテンシャル発電電力量	67.8 TWh

※値は、環境省作成の「自治体排出量カルテ」より引用。

2 千葉県における太陽光発電事業の導入状況

○出力別FIT・FIP認定状況 【2025年6月末時点】

	10kW未満	10kW以上 50kW未満	50kW以上 500kW未満	500kW以上 1,000kW未満	1,000kW以上 2,000kW未満	2,000kW以上	合計
導入件数 (件)	165,740	31,425	941	407	519	28	199,060
導入件数 全国順位	6位	4位	8位	2位	2位	15位	4位
導入容量 (MW)	725	1,002	252	283	806	525	3,593
導入容量 全国順位	5位	2位	7位	2位	2位	14位	3位

※資源エネルギー庁の発表データを取りまとめ。地上設置、建築物上設置の両方を含む。認定移行分を含む。

3 太陽光発電事業における問題

(1) 災害の発生

土砂崩壊、濁水、設備の飛散、火災

(2) 環境、景観への影響

生活環境や自然環境、景観への悪影響

(3) 地域住民とのトラブル

住民の不安、反対運動

4 現行法令の規制状況と課題

(1) 災害の発生

○土砂崩壊、濁水

関係法令：盛土規制法、森林法 等

規制状況：開発行為に対する県等の許可

課題：許可対象外への対応、造成後の維持管理への対応

○設備の飛散、火災

関係法令：電気事業法

規制状況：技術基準への適合・維持義務、国への届出

課題：自主的な保安が原則

4 現行法令の規制状況と課題

(2) 環境、景観への影響

○生活環境・自然環境への悪影響

関係法令：騒音規制法、環境影響評価法、自然環境保全法 等

規制状況：一定の基準以上、指定区域内における規制

課題：規制対象外への対応

○景観への悪影響

関係法令：景観法

規制状況：景観行政団体（県、市町村）による規制

課題：地域ごとの対応の格差

4 現行法令の規制状況と課題

(3) 地域住民とのトラブル

関係法令：再エネ特措法（FIT/FIP制度）

※認定された再エネ電気の固定価格(FIT)又は市場連動(FIP)による買取制度

規制状況：認定要件による適正な事業実施の確保

（住民説明会、認定情報の公表、パネル撤去費用積立）

課題：認定外施設への対応

※令和9年度から地上に設置する太陽光発電施設は
認定対象外

4 現行法令の規制状況と課題

(4) 制度的な限界

現行の法令では計画から廃棄までのライフサイクルに対し、カバーしきれない部分がある。

- (例)
- ・ 事業全体の遂行能力の確認ができないこと
 - ・ 事業者に関する情報公開が不十分であること